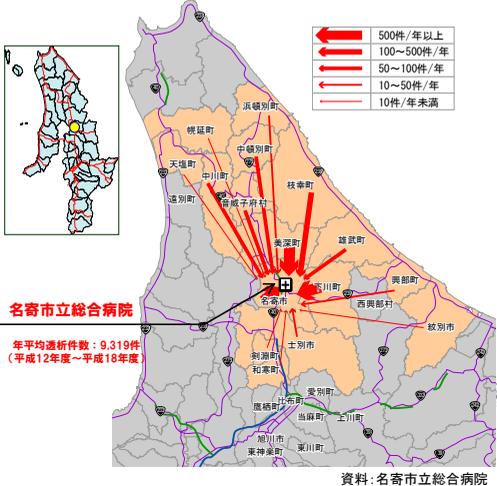


# 名寄バイパスの延伸により、透析患者の通院負担が軽減

## 1. (P) 他地域に依存する人工透析

◆腎機能の低下により人工透析を受ける患者は、4時間にわたる透析を1日おきに行う必要があり、通院や治療にかかる心身の負担は非常に大きいといわれています。  
 ◆しかし、人工透析ができる医療施設は都市部に集中しており、道北エリアでは他市町村への通院が必要な地域が広範囲に存在します。



▲市町村別透析患者来院数（H12年度～H18年度）

▲血液透析患者の市町村別通院自給率分布図

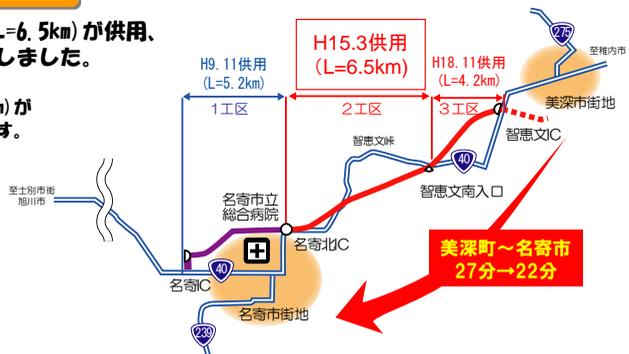
## 2. (D) 名寄バイパスの延伸により所要時間を短縮

◆平成15年3月に名寄北IC～智恵文南入口間（L=6.5km）が供用、名寄市街地と美深町との所要時間が5分短縮しました。

※平成18年11月に智恵文南入口～智恵文IC間（L=4.2km）が供用しており、所要時間はさらに2分短縮しています。



▲国道40号 名寄バイパス

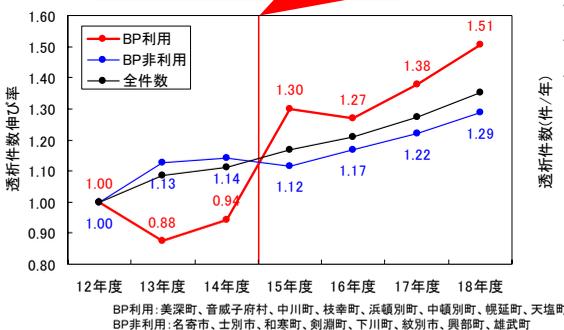


▲名寄北IC～智恵文南入口の供用による時間短縮状況

## 3. (C) 透析患者数が大幅増加

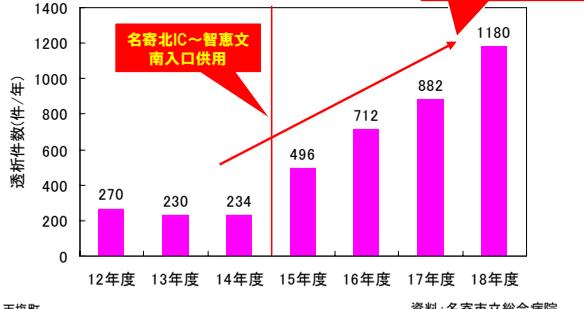
◆名寄北IC～智恵文南入口間の供用により、名寄市街地への所要時間が短縮した町村からの透析患者来院件数は大幅に増加しました（平成18年度は平成12年度の1.5倍）  
 ◆特に、宗谷地方からの来院件数が大幅に増加し、平成18年度は平成12年度の5倍となっています。

### 名寄北IC～智恵文南入口供用



▲透析患者来院件数の伸び

### 宗谷地方からの透析件数



▲宗谷地方からの透析患者来院件数の推移

## 4. (A) 更なる時間短縮により地域医療の支援

◆地方部の医師不足は以前から深刻な状況であり、医師の確保が困難なため地元で人工透析が受けられない地域も存在しています。

◆道北地域における高規格道路の整備により、地域連携・交流の促進を促進することで、地方の医師不足を間接的に支援することも可能となります。

### 人工透析治療

人工透析問題については、議会で取り上げられて4年たちます。透析室の拡張、患者の受け入れ、論議はたげられも解決したものは何一つありません。枝幸町の患者数は20名を越えており、約半数が他の病院で治療しています。病院との協議はその後どの様な状況になっているか伺います。

(1) 病院との話し合いの状況はどうなっているか  
 (2) 患者がいるのに、何故半人数に近い患者しか治療が出来ないのか  
 (3) 人工透析1回で、病院取り入れはいくらかになるのか

### 町長答弁

病院長との協議では、地元での治療を希望する患者様は受け入れたいが、医師の目が十分届き、安さ第一に考えればなりません。非常に厳しい状況ですが、専門医の確保が第一と患者数については、治療技術が日々進歩しており、透析を開始した8年経時とは異様に比較できません。患者様の状態は、月平均ではありますが、月平均では13回治療するおおよそ35万円程度となります。稼働するベッド数7床に対して、スタッフは6、7名で細心の注意を払いながら対応しています。